

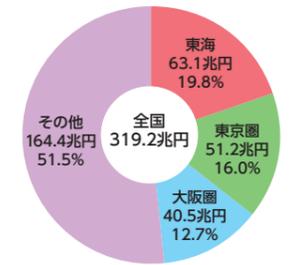
在来線プロフィール

日本のものづくりの拠点である東海地区。自動車関連をはじめとした製造業が盛んな地域です。日本経済における東海地区の地域内総生産の割合は10%（東京圏33.1%、大阪圏13.5%）であるのに対し、製造品出荷額等の割合は、東京圏16%、大阪圏12.7%をおさえ東海地区が19.8%を占めています。*1

特に愛知県は製造品出荷額等ランキングにおいて42年連続で全国1位となっており、そのシェアは日本全体の14.7%に上ります。*2 また県内総生産（名目）では愛知県は東京都に次いで2位となっており、製造業を基盤とした堅調な経済が形成されています。*3

このような東海地区において、JR東海在来線は、名古屋駅を中心に周辺の主要都市を結び、毎日の暮らしに欠かせない交通手段となっています。特に自動車関連産業が盛んな西三河地区の刈谷駅や名古屋市内の主要駅である金山駅、大曽根駅は、地区の中でも利用客の多い駅です。日常生活の動線上にあり、多くの人の目に触れる在来線メディアは、反復接触による高いプロモーション効果が期待でき、幅広い利用客に訴求することが可能です。

■ 製造品出荷額等の全国シェア（2017年）



出典：経済産業省 中部経済産業局「東海経済のポイント2019(3大経済圏比較)より」

*1 経済産業省 中部経済産業局「東海経済のポイント2019(3大経済圏比較)」
 「東海」は岐阜、愛知、三重の3県、「東京圏」は埼玉、千葉、東京、神奈川の1都3県、「大阪圏」は京都、奈良、大阪、兵庫の2府2県を指します。
 *2 経済産業省 2019年工業統計調査
 *3 内閣府 県民経済計算 平成29年度

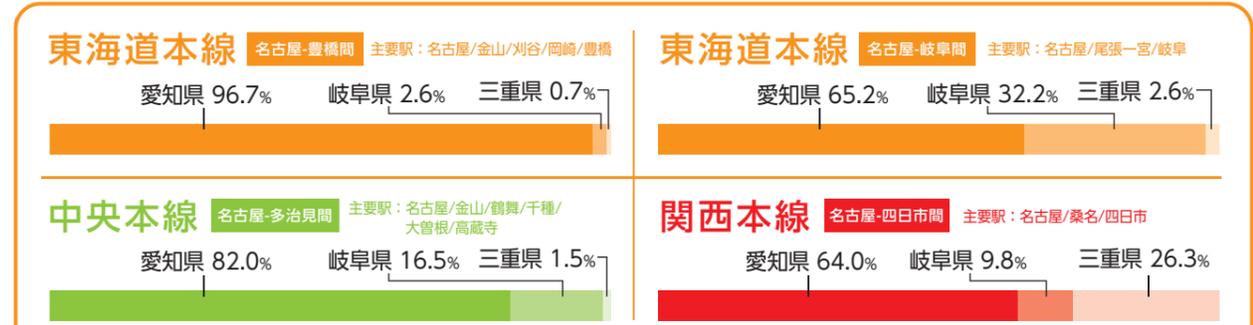
各駅データ

岐阜駅 名古屋から快速列車で約20分で行ける岐阜県の中心駅 1日平均乗車人員：22,500人 連絡線：J東 名	尾張一宮駅 名古屋から快速列車で1駅というアクセス良好な駅 1日平均乗車人員：21,300人 連絡線：J東 名	鶴舞駅 緑豊かな住みやすい街にある駅 1日平均乗車人員：15,100人 連絡線：J中 地	金山駅 名古屋駅に次ぐターミナル駅 1日平均乗車人員：52,400人 連絡線：J東 J中 名 地
千種駅 高級住宅街と学習塾がならぶ駅 1日平均乗車人員：21,800人 連絡線：J中 地	大曽根駅 パンテリウム ナゴヤへのアクセスに便利な駅 1日平均乗車人員：24,500人 連絡線：J中 名 地	高蔵寺駅 大規模ニュータウンのある駅 1日平均乗車人員：15,700人 連絡線：J中 愛	刈谷駅 自動車関連企業が多数。通勤客でにぎわう駅 1日平均乗車人員：27,000人 連絡線：J東 名
岡崎駅 商業施設や高層マンション建築が進む駅 1日平均乗車人員：14,000人 連絡線：J東 愛	豊橋駅 東三河エリアの拠点となる大型ターミナル駅 1日平均乗車人員：18,100人 連絡線：新 J東 J飯 名 豊	静岡駅 静岡県の中心地 1日平均乗車人員：39,500人 連絡線：新 J東 静	浜松駅 静岡県西部の拠点駅 1日平均乗車人員：22,500人 連絡線：新 J東 遠



乗車人員：JR東海公表（2020年度）
 （豊橋駅、静岡駅、浜松駅は在来線・新幹線合計）

主要路線 利用者居住地



ジェイアール東海エージェンシー JR東海在来線 路線プロフィール調査2017
 ・調査時期：2017年12月 ・調査方法：インターネットリサーチ ・対象者：愛知県・岐阜県・三重県居住者 ・サンプル数：2000サンプル
 ・対象路線：主要4路線 JR東海道本線（名古屋-豊橋間）、JR東海道本線（名古屋-岐阜間）、JR中央本線（名古屋-多治見間）、JR関西本線（名古屋-四日市間）
 ・対象者条件：各路線を週1回以上利用する人 ・調査機関：株式会社ジェイアール東海エージェンシー 株式会社クロス・マーケティング

JR名古屋駅

1日平均乗車人員 128,200人

連絡線 東海道新幹線 / 東海道本線 / 中央本線 / 関西本線 / 名鉄 / 近鉄 / 地下鉄 / あおなみ線

乗車人員：JR東海公表（2020年度）
 （在来線・新幹線合計）

東海地区最大の交通拠点である名古屋駅。新幹線や高速バスをはじめとした長距離移動、JR在来線や私鉄の利用による近隣県や愛知県内への中距離移動、そして地下鉄やバスの利用による名古屋市内への短距離移動等、様々な目的地へ向かう利用者が集う交通の要となっています。また、名駅地区では、近年大規模開発が進み、「JRゲートタワー」をはじめ多くのビルが並び、オフィス面積も増加しました。百貨店売上額は栄地区を抜いてトップとなり、ビジネス・商業機能ともに名駅地区への集中が進んでいます。

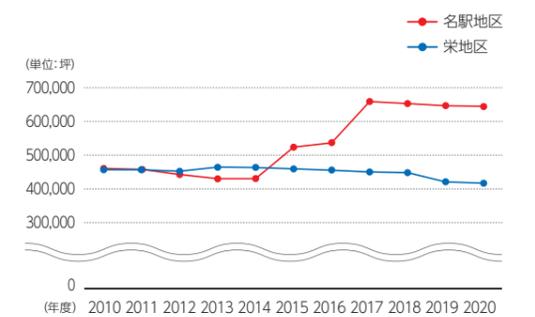


高層ビルの開発が進んだことにより、名駅地区はオフィス街としても大きな発展を遂げました。オフィス延床面積は2010年の時点でほぼ同規模だった栄地区を大きく引き離し、この約10年で1.4倍に増加しています。名古屋駅と栄駅周辺の企業約5,000社を調査した結果、「株式会社」「資本金1億円以上の企業」「従業員数1,000人以上の企業」等、規模の大きな企業の割合が名古屋駅の方が高いことがわかりました。また、上場企業の割合は名古屋駅周辺では3.5%、栄駅が2.9%という結果となりました。*1

リニア中央新幹線が開業すれば交通の利便性が高まり、他の地域との結びつきも強まることで、名古屋駅はビジネスの拠点としてさらに発展していくことが予想されます。

*1 調査時期：2020年12月～2021年1月 調査対象：名古屋駅、栄駅周辺約1キロに住所のある企業
 調査方法：インターネット電話帳等の情報を元にジェイアール東海エージェンシーで調査

■ オフィス延床面積（名駅地区、栄地区）



出典：三鬼商事「MIKI OFFICE REPORT NAGOYA 2021」を元にジェイアール東海エージェンシーで作成